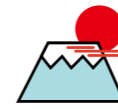


# 特集 新しい年の はじまり



400年の歴史をほこる中野沢猿田彦神社。この神社に毎年しめ縄を奉納する中野沢地区のみなさんの、今年のしめ縄づくりにおじゃましました。



今年も無事しめ縄を作りあげた中野沢地区のみなさん。12月31日にしめ縄を鳥居と本殿に取り付け、新年を迎える。

昔からみんなで作って納めてきたのもの。買って取り付ければ良いというものではないんだよなあ。

## 昔からやってきたこと 変わらないこと

11月、冬を迎える前に、私たちは地区の中でもしめ縄づくりの名人、畑中さんにお会いしました。  
「昔はね、藁でいろいろなものを作るのが当たり前だった。学校では縄を作る時間があった。誰が一番長く作れるか競ったり。作った縄は農作業に役立つから農家さんに渡すんだ。今みたいに簡単に靴なんか手に入らないから、わざわざ

作るんだけどね。親父から遊んでねえで、わざわざ作れと怒られながらやっただけです。そうやって毎日毎日藁に触れていたからね。神社のしめ縄を作るのも、昔の人は普通のことだったんでないかな。」

畑中さんは、ご自分の田んぼで刈り取った藁を使い、自宅の玄関や神棚にも自作のしめ縄をかけます。大地の恵みを用いて五穀豊穡、家内安全を願い、それがめぐり巡って地域の幸せにつながる。「願う気持ち」は大切な思いです。



年に一度のしめ縄作り「焦らなくても良いから丁寧に」と声をかけ「手、放すな。せーの。」と息を合わせて締め上げる。



- 1 材料となる藁(ワラ)は、地区の田んぼから刈り取られたもの。
- 2 最年長者の畑中さん。単なる縄とは違い左方向に編む「左縄」の名人。
- 3 無事完成を祝して乾杯。「たまにこうして集まってワイワイやるのがいいよな」との声が聞こえる。

## 年に一度の大切な一日 それがしめ縄づくり

冬が到来し雪が積もり始めた12月9日。この日は、中野沢猿田彦神社に納めるしめ縄づくりが行われました。

朝9時。神社に集まった地区のみなさんが、それぞれ藁(ワラ)を叩き、叩いた藁を結び、編みあげていきます。鳥居にかけるしめ縄は全長10m。一番太い部分を編む際には、数人が力を込め、かけ声とともに締めあげます。本殿内にかけるしめ縄は細く、手の平だけを使って編んでいきます。「左縄」と呼ばれ左巻きに編んでいくこの技は、熟練の手でなければ難しく、この縄だけは最年長者の畑中さんが編みます。年長者のみなさんにお話を聞いても「子どものころからかけられていた」という手作りのし



- 1 一年間飾られた鳥居のしめ縄。ここから先が神域であることを象徴する。
- 2 中野沢猿田彦神社。400年の歴史を感じさせ、地域のみなが誇りに思う立派なたたずまいだ。



今年も無事しめ縄が完成。一仕事を終え、会話もお酒も弾む。



畑中美一さん(左)と浜田八十美さん。「我々は口だけうるさい年頭さ」と笑うが、立派な師匠たちだ。

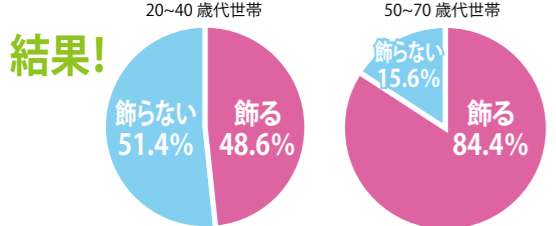
## ひとつひとつのつながりが 大きなつながりになっていく

「この神社は歴史も古いし、我々の誇りなんです。ここに毎年きちんとみんなで作ったしめ縄をかけるのはとても良いこと。昔の人はすごいな、こういうものを残してくれてありがたいな、そう思いますね。」しめ縄づくりが終わったあとのお疲れさんの一杯。私たちにそう話を

してくださった方がいました。地域のみんなが集まって、古くからある大切なものや、あるいは新しいことに取り組んでいく。お隣さんから始まるコミュニティは、町内会を始めとする自治組織や地域のつながりを経て、やがて「むつ市」というひとつのまちに発展します。この日、私たちは中野沢地区のみなさんを通して、地域の力の大切さを改めて感じるようになりました。

## みなさんは「しめ飾り」飾っていますか？

むつ市にお住まいのみなさんへ「お正月に、ご自宅にしめ縄などの飾りを飾っているか」お聞きしました。



50~70歳代のご家庭では8割以上がしめ飾りを飾るのに対し、20~40歳代のご家庭では、飾るご家庭が約半数になっています。若い世代で「飾らない」という方からは、「アパートに住んでいるのでわざわざ飾らない」や「実家ですっかり飾っているから」という声がありました。

市役所来庁者、ムチュ☆らんど来所者等へご協力いただきました。

むつ市のみなさんにお聞きしました

